

# 雪国での非日常体験 クラスを越えて深まる絆



題字 井口 文章  
再刊 第509号  
印刷・発行  
錦城高等学校新聞委員会  
編集室 2026

みんなでつくる  
錦城高校新聞

一面：62回生修学旅行に行ってきました  
蔵王での出会い、スキー実習  
二面：探究 テキスト著者 岡本さん講演  
1年生は学年クイズ大会も実施

## 62回生 楽しんだ山形・蔵王修学旅行

1月26日(月)から1月30日(金)、四泊五日の62回生の修学旅行が行われた。今号では、蔵王でのスキー実習の様子を中心に伝える。

### 初心者もどんどん上達

修学旅行2日目から3日間に渡って行われたスキー実習は初心者と経験者に分かれて行われた。



仲間と過ごした思い出の1枚

初心者班は、3日間での成長が最も顕著に表れた班ではないだろうか。初日の午前中はリフトに乗ることもなく、低地での基礎練習から始まったスキー実習。1、2回のスキー

経験がある者と、初のスキー体験である者が混在した初心者班からは、自分だけが思うように滑れない、実力差があつて足まが揃わない、などと悩む声も聞かれた。うまく止まらず、「止まらない!止まらない!」と叫びながら暴走する錦城生も見られた。しかし、2、3日目と練習を重ねていくうち、インストラクターさんのあたたかな指導や、チームメイト同士の励まし合い、そして各々の努力によつて、皆で楽しくスキーができるようになった。

### 仲間と滑る楽しさを実感

上級者は、からまでレベル別の班を編成した。最上級のある班は、1日目は足慣らしという事でターンの練習から始まり、蔵王温泉スキー場の横倉ゲレンデを中心とした、比較的易しいコースを滑った。蔵王のふかふかのパウダースノーに足をとられて体勢を崩す人もいた。

## かけがえのない出会いに感謝

### 感謝の気持ちを忘れずに

修学旅行直前の1月24日(土)に、体育館で修学旅行の出発式が行われた。本部長で副校頭の串田昌也先生は、錦城生は先生の声一つで動けるから、さらに上を目指し、教員の一言の前に動けるようになってほしいと話した。串田先生は元錦城生として自身が体験した修学旅行

### 3日間の感謝を込めて



班長から直接記念品を贈呈

スキー実習の修了式を行った。ルーセントタカミヤの前で行われた閉会式では、インストラクター代表の方が「皆さんはとても恵まれています。今君たちが蔵王で修学旅行を楽しんでいるのは、家の方々のおかげです。家に帰ったらおうちのの人にたくさん話を聞かせてあげてください。一番のお土産は安全に帰って、修学旅行の思い出をたくさん話すことです」とスキー実習を送った生徒にメッセージを送った。生徒代表として生徒会長の神田陸翔さん(2G)が「結婚したらまた蔵王に行きます!!」とユーモアのあふれる感謝の言葉を述べた。最後に寄せ書きをした班旗と記念品のTシャツをそれぞれ実習班ごとにインストラクターさんに渡した。インストラクターさんから実習終了のステッカーをもらい、帰るときも姿が見えなくなるまで生徒はずっと手を振り続け、閉会式は終了した。

## 3日間お世話になりました

閉校式ではお世話になったインストラクターさんへの班旗への寄せ書きと記念Tシャツのプレゼントが行われた。



「また蔵王に来てください!」

中級者班のインストラクターの石塚勝也先生は、「安全に楽しく滑ってもらう」ことを一番に指導しているという。インストラクターを始めた13年前から錦城生を教えているそう。「これからも飽きずに蔵王に来てください」と錦城生に言葉を贈ってくれた。

編集委員は温泉街でできた玉こんにやくを購入した。串刺しになった玉こんにやくは柔らかく、味がしみていて美味しかった。



白銀の蔵王の山並み

## 特集 蔵王スキー場グルメ

4日目の昼食は各自スキー実習班ごとにゲレンデで食べる形となった。ここでは編集部員がForest Inn SANGOROで実際に食べたお昼ご飯を食レポする。



クラムチャウダー

中身がくりぬかれた乾いたパンにクラムチャウダーが満たされている本格的なタイプ。具もたくさん入っていて大満足のボリュームだった。シーフードの風味がたまらない一品。スキーで冷えた身体に染み渡るようだった。

パンケーキ

ぜいたくな二段重ねのパンケーキに、ふわふわのホイップクリームと濃厚なバニラアイスクリーム、甘いメープルシロップがかかっている。スキーで疲れた体に糖分補給をするのにぴったりのスイーツだ。



中央高原ぷりん

冷たい状態で提供されるが、電子レンジで温めてもらうという食べ方もある。滑らなくちどけて、濃厚なカラメルと合わせて食べると最高のハーモニーを生み出す。温かいプリンを食べるのが人生で初めてで、味の想像がつかなかったが素晴らしい食べ物だと思った。



## みんなは自由時間何をしていた?

### ベッドをめぐって真剣勝負も...

スキーを終えて、自由時間は思い通りに過ごした。皆はいったい何をして過ごしたのだろう。1年生はぜひ来年の参考にしたい。



部屋で自由時間を満喫

富豪が盛り上がった話生徒も。部屋によってはベッドと布団の両方が用意されているため、ベッドをめぐる熱い戦いをしたそう。

「菓子パ」をした班もあったようで、お菓子の包装紙でゴミ箱があふれた返つたと楽しそうに振り返る生徒も。ある生徒は「コンビニはとても混むので、お菓子は現地のお土産屋さんか、東京から調達した方がいいと思います」と教えてくれた。

多くの生徒が部屋でトラランブやウノといったカードゲームをしていたようだ。部屋を越えてのゲームも行われ、大団圓の夜となった。

夕食までの時間で温泉街を散策した生徒もいたようだ。共同湯の温泉に入った強者も。コンビニや土産屋のある通りは、連日錦城生でにぎわっていた。思い出の時間を過ごして、それぞれ思い出を作ることができた。

## むらさき草

今日も推しが尊い。毎日の元気をくれる推しに会いたい。いろんな話をしたい。けれども、どうしたら推しと会うことができるのか。



# 「楽しかった」で終われるような探究を

## 探究講演会 探究テキスト著者の岡本さん来校



個別の質問にも答えてくださった岡本さん

昨年12月17日(水)、1・2年生の探究活動で使っているテキストの著者である岡本尚也さんをお招きし、体育館で1・2年生対象の講演会が行われた。グローバルな視点からの様々な話があり、進路や学びについて深く考える時間となった。

(編集部共同取材)

探究は「何をしたいか」を軸に  
岡本さんは、探究のテキスト『ゼロから始める探究活動』(1年)、『課題研究メソッド』(2年)の著者。講演ではまず岡本さんのキャリアの話から、進路選択について話をしていた。岡本さんは、進路選択は「自分が何をしたいか」を軸にすることが大切だと強調。「これが自分だ」と言えるものや考えを持つてい人とはそこから着実に経験を積み上げていくことができるという。また留学では、日本という狭い世界で「当たり前」とされていた価値観が相対化され、生きる力が身につくという岡本さん。[Comfort zone (居心地のいい環境)]から一

歩踏み出し、「Fear zone(怖いゾーン)」を越えて「Learning zone(学びのゾーン)」に入ること、人は成長できるという話が印象的だった。

講演の後半は、探究について。岡本さんは「探究は『こうすれば正解』がなく、『自分はどうしたいのか』が問われます。自分の言葉を磨くことが探究です」と心構えやコツについて教えてくれた。

探究「小さい問い」を立てる  
良い探究とは「小さい探究」であること、YESかNOで答えられない問いであること、前提を疑い問いを立てること、といった実践的な探究のアドバイスを挙げる岡本さん。講演中に『日本のジェンダーギャップ指数は世界で116位』というデータを見てどういった問いを立てるか」と皆に質問。挙手した生徒が「今と昔で違いはあるのか」という問いを挙げると、岡本さんは「具体的にどの時代のことを調べたい?」と問い返した。「戦前とか」と答えた生徒に、岡本さんは「確かに、戦前後で違いがあるのかとか気になるよね」と

## 性感染症関心を持って

### 小平保健所の啓発シール掲示

3学期が始まって、錦城の一部トイレに性感染症検査の啓発シールが貼られていることに気づいただろうか。QRコードが2つあり、読み込むと性感症と検査についての動画と、検査申し込み用サイトに行くことができる。



保健所の依頼で張られたポスター

用者が少ない冬休み期間に、保健室の養護の先生方で手分けして、校舎のトイレに貼ったという。

令和5年時点の厚生労働省のデータによると、15〜19歳の性感染症の報告数が約4735件にも上り、その数は年々増加傾向にあるという。編集部員も動画を閲覧したが、性感染症の検査において勘違いされやすいことについて言及し、早めの検査を促していた。

水田先生は、今回の掲示などの情報を見て、興味を持ち、自分で調べるなどして、すぐに行動してみたいです。そして、自分で検査を受ける、感染予防をするといった、パートナーを守るための選択ができる大人になってほしいです」と錦城生にメッセージを送った。

ちなみに、小平保健所ではこの啓発シールと動画について感想を募集しているそうだ。動画やポスターなどについての質問や感想があったら、東京多摩小平保健所保健対策課にメールを送ってみてね」と水田先生は笑顔でコメントをした。

## 映画研究部 関東大会優良賞

### 一年生作品 こだわった演出



関東大会会場の様子 福江先生提供

映画研究部が、1月25日(日)に行われた関東地区高校放送コンクール(関東大会)で、8作品中ベスト4に相当する優良賞を受賞した。作品タイトルは『小平のヒーローその名は・・・』で、1年生が制作した。今回制作班の中心をつとめた伊藤旭陽さん(1B)は、喜びも感じるが先輩方の準優勝などの結果を見てきて、悔しさも感じたと振り返る。部員の中川穂香さん(1A)は「倒れた時に出る煙などレンジャーものにできる限り寄せてリアルっぽくしたかったので、できるだけ細かいところにCGを入れていきました。こだわった部分で観客が笑って喜んでくれたことが嬉しかったです」と語った。



撮影準備をする映研部員

今回の大会は東京で行われたため、都内の生徒が運営スタッフもつとめた。錦城はミスが許されない音響や機材を担当し、とても緊張したがいい経験だったと伊藤さんは振り返る。新たな技術や機材の使い方を学べ、他校との親睦も深められたそうだ。中川さんは、次のNHK杯が先輩たちと作る最後の作品になるため、できるだけことをやりたいと語った。また、全国出場を途切れさせないことを目標にしたいという伊藤さん。「先輩からの技術を受け継ぎ、先輩をも越えられるよう後輩と共に頑張りたいです」と志した。(蒲)

## 訂正とお詫び 合唱祭曲について

509号に掲載した合唱コンクールで歌われる曲の表に間違いがありました。

誤 2K イエスタデイ/Official 髯男dism  
正 2K 群青/小田美樹  
訂正してお詫びします。申し訳ありませんでした。

## 先生の意外な面を知れたクイズ大会 一学年、学年レク開催



クイズを出題している様子

クイズ大会。このクイズだけは6人の先生が生徒の目の前で同時に紙飛行機を飛ばして答え合わせをした。実演する大崎先生だけが遅れて登場したときは全員が拍手をした。一番投票されていたのは大崎先生だったが、正解は太田先生だった。優勝した班には豪華景品として学校のクリアファイルと錦茶が贈られて学年レクは幕を閉じた。クラスの枠を超えた交流でとても楽しめた。

## 手話を覚えよう! ⑪ ラスト3回! みんなやってみてね

今回、手話を実演して下さったのは国語科の松原先生。17弾で紹介するのは「柔らかな」という手話です。両手でやわらかくもむように動かします。

現代文の先生として音声だけではなく言語の可能性を感じました。(松原先生)



▽合唱祭実行委員会 随時活動中

生徒会 動静 12.21~2.6

▽空手道部 令和7年度 第34回関東高等学校空手道選抜大会 1月17日(土)、18日(日) 出場 準優勝

女子団体形 男子団体組手3人制 優勝

▽陸上競技部 第46回こいだり市民駅伝大会 一般の部 優勝

一般女子の部 優勝 一般男子の部 第3位

大会報告

3年生は受験期間、2年生は修学旅行や学級閉鎖と回答数が少ない中だったが、自分の意見を政治に反映させたいという声が多く聞かれた。自分の意志で大切な一票を投じられるように明日の衆院選に注目してみよう。(桃)

衆議院選挙 錦城生関心あり7割 生徒緊急アンケートを実施

明日2月8日(日)は第51回衆議院議員総選挙が行われる。これに伴い新聞委員会では1月末から衆院選直前アンケートを行い、1年生96名、2年生54名、有権者の3年生17名、計167件の回答が集まった。

「衆議院に関心はある」と回答した人は73.1%だった。編集部で挙げた項目の中から、特に関心のある話題を

行く	行かない
自分の意見を反映させたいから	日曜くらい休ませてほしい
投票している大人がかっこいいから	政治について詳しくないから
若者の意見を反映させるべきだから	めんどくさいから
国民の義務だから	国籍が日本ではなく、選挙権がないから
税金が高すぎるから	自分の生活がよくなるとは思えないから
関心を示すことは大切なことだから	知識がなくて投票したら、迷惑だと思うから
自分の生活に関係のあることだから	特別興味ないから
より暮らしやすくなりたいから	政策を完全に理解して言わなければならないから
選挙を体験してみたいから	立候補者をよく知らないから
自分の意見を伝えるのは大切だから	入任せるのは良くないから

選んでもらったところ、最も多かった回答は「税の引き下げ」34.7%。以下、「米中など外国への対応」28.9%、「外国入対応」25.0%、「防衛・安全保障」23.0%、「少子化対策」22.0%、「働き方改革」18.0%と続いた。

さらに、選挙権のある3年生に「投票をしに行きますか?」と問うと、88.1%の人が「行く」と回答した。「行く」と回答した理由として、「自分の生活に関係のあることだから」「自分の一票で日本が変わるかもしれないから」「投票してみたい!という憧れのような気持ちがあるから」という意見があった。「行かない」と回答した人からは「せつたの休みだから」「興味がない」「知識があまりないので逆に迷惑かもと思うから」「受験で忙しい」という意見が上がった。

3年生は受験期間、2年生は修学旅行や学級閉鎖と回答数が少ない中だったが、自分の意見を政治に反映させたいという声が多く聞かれた。自分の意志で大切な一票を投じられるように明日の衆院選に注目してみよう。(桃)